#### 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 1 8 日現在

機関番号: 34517

研究種目: 研究活動スタート支援

研究期間: 2016~2017

課題番号: 15H06778

研究課題名(和文)慢性心不全患者のセルフモニタリングを促進するための外来看護支援指針の開発

研究課題名(英文)Outpatient Nursing Support for Promoting Self-Monitoring of Patients with Chronic Heart Failure

研究代表者

谷口 千夏 (Taniguchi, Chinatsu)

武庫川女子大学・看護学部・助教

研究者番号:20757215

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、慢性心不全患者の心不全の急性増悪の発症を回避するために、患者のセルフモニタリングを促進することに焦点を当て、外来看護支援を明らかにし、外来看護支援指針を作成することを目的とした。 慢性心不全看護に精通した慢性疾患看護専門看護師あるいは慢性心不全看護認定看護師で外来看護を行っている。

る看護師を対象に、インタビュー調査を行い、その内容を質的に分析した結果、7つの支援が明かになった。

研究成果の概要(英文):The purpose of this study is to develop measures of outpatient nursing support for chronic heart failure patients. In this study, we focused on promoting self-monitoring among chronic heart failure patients. We clarified the specialized outpatient nursing support offered by Certified Nurse Specialists in chronic heart failure nursing or Certified Nurses in chronic heart failure nursing.

Through semi-structured interviews conducted using an interview guide, we demonstrated seven forms of outpatient nursing support for promoting self-monitoring among chronic heart failure patients.

研究分野: 臨床看護学

キーワード: 外来看護 セルフモニタリング 慢性心不全

#### 1.研究開始当初の背景

心疾患は日本人の死因の第二位を占めて いる。あらゆる心疾患の終末像である慢性心 不全の者数は約 160 万人と推定されており、 その数は年々増加している。心機能は加齢変 化を伴うため、高齢化が進むことで、心不全 患者数の増加は避けられないと考えられる。 近年の治療技術の進歩にもかかわらず、約 35%の患者が退院後 1 年以内に、心不全増 悪により再入院している。急性心不全を発症 すると、入院治療により症状や血行動態は改 善するものの、心筋機能は元に戻ることなく 徐々に悪化していく。そのため、心不全増悪 による入退院の繰り返しは、生命予後を悪化 させる。これより、病状悪化の徴候を早期に 発見、対処し、急性増悪を回避することが重 要である。

欧米では、退院後のフォローアップに関す る研究がさかんに行われており、医療者の介 入により、再入院率の低下や医療コストの減 少が報告されているが、これまでのように心 不全による症状が悪化したときに医療者に 連絡するという対処行動には限界があり、患 者をセルフケアに導くことが心不全の再入 院率を減少させることが指摘されている (Jurgens et al., 2013)。一方、わが国の再 入院率は欧米並みに高いが、退院後の生活管 理は患者の自己努力にゆだねられている部 分が大きく、退院後の医療者の介入が心不全 の管理に大きく貢献することが予測される。 心不全増悪時の症状は、咳や倦怠感などのよ うに他の並存疾患と区別しにくい。また、活 動に伴う一時的な負荷と類似した身体反応 であるため、一概に増悪の症状とは判断しに くい。このことより、患者は心不全の症状や 徴候をとらえにくく、ケアの遅れにつながっ ていることが考えられる。セルフモニタリン グは、効果的なセルフマネジメントを行うた めに重要な過程であり、患者が自己の症状や 徴候をとらえるための鍵になるものである。 申請者は先行研究において(申請者研究業績 1、2013 ) セルフモニタリングを症状の自覚 および客観的な情報の観察、測定を行い、 それらを解釈することと定義し、慢性心不全 患者のセルフモニタリングの実態を調査し た。その結果、患者がセルフモニタリングを 繰り返す中で、医療者の判断を頼りにしなが らも、自己の体調をとらえられるようになっ ていることが明らかになった。一般的な心不 全の症状は示されているものの、心不全の患 者の症状や徴候の出現の仕方は患者によっ て様々であることから、患者が自身の状態と して認識することは難しく、まずは、患者が 自己の症状をとらえ、自己の症状として認識 できるよう支援することが必要である。次に、 それらの症状と身体活動や生活状況を照ら し合わせながら、適切に自己の体調を解釈で きるよう看護師が支援することが、早期に心 不全増悪の症状をとらえ危機的状況を予防

することにつながると考える。しかしながら、 現状では、そのための看護支援方法について は模索段階であり、専門的な外来看護支援指 針の開発が急務である。

### 2. 研究の目的

本研究は、セルフモニタリングを促進することに焦点を当て、外来看護支援指針を開発することが目的である。

### 3. 研究の方法

本研究は、外来看護支援指針を作成することを目的としていることから、高い水準の看護を実践されている看護師を対象とする必要がある。よって、慢性心不全看護に精通した慢性疾患看護専門看護師あるいは慢性心不全看護認定看護師で、外来看護を行っている看護師を研究対象者として選定した。

データ収集は、インタビューガイド(表1)を用いて半構造的面接調査を行なった。インタビューデータより逐語録を作成した。逐語録を精読し、慢性心不全患者のセルフモニタリングに関する外来看護支援の内容を表すコードを作成した。分析は質的統合法(KJ法)を用いて行った。本研究はA大学倫理委員会の承認を得て行なった。

## (表1)インタビューガイド

- 1.外来において、慢性心不全患者に対し、患者の症状や徴候の認識を促すような関わりをされていますか。
- 2. 症状や徴候を自分自身のものとして認識してもらうためには、 どのような支援が効果的ですか。また、症状や徴候を認識することが難しい場合はありますか。その場合、どのような支援を行っていますか。
- 3. 患者が認識した症状や徴候から患者自身が体調を適切に解釈するために、どのような支援を行っていますか。

# 4.研究成果

研究参加者は6名であった。本研究結果の 一部を以下に示す。

慢性心不全患者のセルフモニタリングを 促進するために7つの外来看護支援(図1) が明らかになった。慢性心不全看護認定看護 師による外来看護支援としては、「身体に関 心を向ける支援」、「症状と知識をつなぐ支 援」、「データを解釈する支援」の3つの基本 的なセルフモニタリングを促進する支援を 行っていた。一方で、患者が症状にとらわれ すぎないよう「セルフモニタリングを強化し すぎない支援」に留意していた。さらに、「病状の悪化を防ぐ支援」、「病状の悪化に対処するための支援」を行い、「生活に広がりや楽しみをつくる支援」につなげていた。外来看護支援の内容は、以下に示す。

- (1) 身体に関心を向ける支援:患者に触れることで患者の意識を身体に向ける
- (2)症状と知識をつなぐ支援:心臓の模型や検査結果などを駆使して「なるほど!」を 生み出す
- (3) データを解釈する支援: ECW/TBW(細胞内水分量、細胞外水分量の比率)などのデータを伝え、調整方法を検討する
- (4) セルフモニタリングを強化しすぎない 支援:身体感覚やデータにとらわれすぎない か確認しながら、情報の伝え方を配慮する
- (5) 心不全の悪化を防ぐ支援:セルフモニタリングを一手段として、患者が自分の心臓に見合う生活レベルを決められるよう支援する
- (6) 病状の悪化に対処するための支援: 患者の獲得した独自の身体感覚を大事にし、 対処法に結びつける
- (7) 生活に広がりや楽しみをつくる支援: セルフモニタリングを活用して その人らしい生活を取り戻せるよう支える

以上の結果より、慢性心不全患者のセルフモニタリングを促進するための外来看護の指針となる支援を示すことができた。

今回の研究において、特に注目する点と しては、単にセルフモニタリングの技術を促 進するのみならず、セルフモニタリングを患 者の生活に広がりや楽しみをもたせること につなげることを目的に看護支援を行って いたことである。さらに、セルフモニタリ ングを強化することで、患者が症状にとら われ過ぎてしまい、その人らしい生活が失 われてしまわないように配慮しながら支援 していることが明らかになったことも重要 な結果であった。これらのことから、セル フモニタリングは、症状の悪化の徴候を早 期に発見し、対処できる一方で、患者が症 状やデータにとらわれてしまい、患者らし い生活が損なわれないように配慮が重要で あることが明らかになった。

日本では、慢性疾患看護専門看護師および 慢性心不全看護認定看護師が全国で活躍し ている。しかしながら、その専門的支援につ いては、十分明らかにされておらず、今回の 研究で、その内容の一部を示すことができた ことは大きな成果となったと考える。今後は、 今回の結果から得られた留意点について考 慮しながら、さらに外来看護支援を発展さ せるべく、研究を継続していく必要がある と考える。

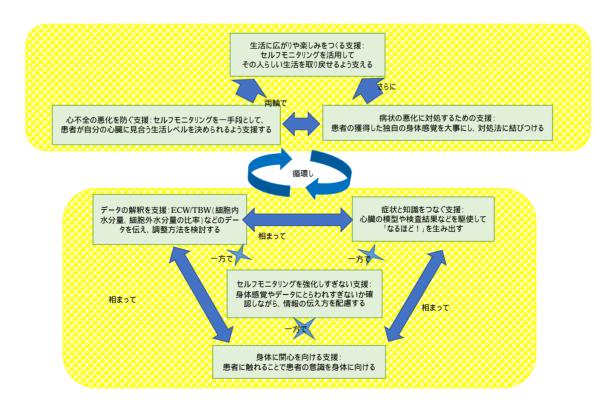


図 1 慢性心不全患者のセルフモニタリングを促進する外来看護支援

# 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔学会発表〕(計1件)

1. <u>Chinatsu Taniguchi</u>, Natsuko Seto, Yasuko Shimizu, A Case Study of Outpatient Nursing Support for Promoting Self-Monitoring of Patients with Chronic Heart Failure by a Certified Nurse in Chronic Heart Failure, 21st EAFONS & 11th INC (国際学会), 2018, 査読あり.

# 6 . 研究組織

# (1)研究代表者

谷口 千夏 (TANIGUCHI, Chinatsu) 武庫川女子大学・看護学部・助教 研究者番号: 20757215